

メールで世界がひろがった(左から新山さん、林さん、木場さん)



からもメールはもちろん市販の経理用ソフトを使いこなすなど、自らの事業にパソコンを積極的に活用している。同じく奄美大島の龍郷町に住む林睦子さん。中学三年の頃に見えなくなり、林さんも音声でメールの内容を教えることができるソフトを使って、「コミュニケーションの輪をひろげていった。たしかに、障害を持っていない人になればパソコンを覚えるのに、それなりの時間を必要とするが、学んでいくうちに、こんなことをしてみたい、あんなことができればと、夢がどんどん広がっていき、誰でも同じ。

簡単に持ち運びでき、移動中の利用に威力を発揮する携帯電話、ノートパソコン、あるいは手の平におさまるパームトップ型パソコン。障害者にとって、IT機器は部屋の中だけで使うのではなく、常に携帯して、いつでもどこでも使えば大変便利。そうしたIT機器を、いわば自分の五感のように使いこなしているのが、日置郡伊集院町の木村由美さん。木村さんは、全盲に加えて言語障害というハンデがあり、相手からの情報は聴覚に頼る。

IT端末とコミュニケーション

音声を頼りにパソコンを操作しているが、すべての操作を音声でカバーしてくれるわけではないので、夜中にどうしていいかわからず、寝ている弟さんを起こして教えてもらったことも。その点は、大口の湯田さんと共通の悩みである。それでも、メールを使うと遠くの人とも障害に関係なく、簡単に「コミュニケーション」できることや、日本や世界のあちこちから仕事に必要な情報を入力できることなど、不便以上にパソコンのメリットを、三人とも強調する。ITの活用が身体の障害だけではなく、地理的なハンデもなくなると。

コラム

COLUMN

視覚障害者に便利なメールソフトって、どんなもの?

「MMメール」「マイメール」など、視覚障害者が使いやすいメールソフトがあり、これを使うと、送ったり受け取ったりするメールの内容はもちろん、いつだれから来たのかといったことを音声で読み上げてくれる。キーボードを打てるようになれば、比較的簡単にメールでのやりとりができる。また、音声で読み上げるソフトとして「PCTカー」などがあり、このソフトをパソコンに入れておけば、メールに限らず画面上の文字を読み上げてくれるので、インターネット上のいろいろなホームページを楽しむこともでき、世界がぐんぐんひろがっていく。

○このメールを受信しました!

木村さん愛用のノートパソコンと、ポケットボード(右)



【特集】情報の壁を、とっばらおう

これで、世界がグ〜ンとひろがりました。

~障害者のIT利用の立場から~

もう一度、書いてみたい、読んでみたい

大口市にお住まいの湯田千鶴子さんは、五十代の頃までは自転車に乗ることができた。その後、視力がどんどん低下していき、六十代の後半になると、一人で歩くのが怖く、いよいよ目が見えていた時みたい、もう一度文字を書いたり、読んでみたい。そこで点字を習おうと決心して、市役所を訪ねてみた。このとき紹介されたのは

ご主人のアドバイスでデジカメ撮影



湯田さんが撮影した写真を年賀状に

鹿児島市にあるハートピアかごしま。さっそく訪ねたハートピアかごしまで初めてパソコンに出会う。それまで話題として聞いたことはあるものの、実際にパソコンを触ったこともなく、まして視覚に障害のある自分が使えるとは思ってもいなかった。また、音声でパソコンの操作やメールの読み上げをやってくれるソフトがあることも初めて知るまで、驚きの連続だった。メールのやりとりができるようになる講習会があることを知り、湯田さんはまずA、B、Cの入力方法か

ら勉強を始めた。そして、五回ほど講習会に通ううちにキーボードの入力からメールのやりとりまでできるようになった。東京の友だちから励ましのメールを受け取った時は、とりわけ嬉しかった。ご主人と二人暮らしの湯田さんの楽しみは、もっぱら娘や孫や友だちとうしでのメールのやりとり。状況報告から漬物の漬け方までメールで教えてあげたりする。最近、湯田さんはパソコンを使ったメールだけではなく、携帯電話やデジタルカメラへも興味を持つようになり、庭先に咲いた草花にレンズを向ける。ご主人が細かいアングルを指示し、撮影した写真はパソコンに取り込んで年賀状に使用する。このように暮らしの中にIT機器をうまく取り入れていく湯田さん。音声によるガイドダンスなど、視覚障害者にとってパソコンはとても使いやすくなってきているものの、あらゆるケースに対応しているわけではないようだ。パ



子どもや孫ともメールで。と湯田さん

地理的ハンデがなくなった

徳之島伊仙町の木場美恵子さんは視覚障害を持つ。四十歳を過ぎた頃から視力が急激に悪化していった。そんな木場さんは、昨年夏に町の公民館でパソコンセミナーを受講した。木場さんがなによりも驚いたのは、パソコンがメールを音声で読み上げてくれること。セミナー受講のおかげで、今ではメールを使いこなせるようになり、障害者だけではなく目に障害を持っていない人との交流に役立っている。また、幼児教育の仕事に携わっている木場さんは、読み聞かせ絵本や絵本そのものの収録等にパソコンを活用している。新山葉子さんは奄美大島の名瀬市に住み、視野狭窄という障害を持ちな

ソーンを使っている最中に突然動かなくなるいわゆるフリーズした時には、音声ではなんのメッセージも返してくれない。その結果パソコンと延々向き合ったことも。ハードウェアにしてもソフトウェアにしても、障害の特性に配慮したより細かい対応が望まれる。



まずは楽しんで。と山之内さん

山之内さん自身は、勤務していた病院を定年退職したあと、通い始めたパソコン教室で初めてパソコンに触れた。その経験を通してもっと障害者が気軽にパソコンを学べる場が欲しいと実感する。例えば、せっかく市町村が講座を開いても、その市町村に居住していることが条件であったり、受講期間が限られていたりする。また、障害のない人といっしょの教室では、ついていけないのではないかと不安が湧いてくる。「自分が学んだ時にわからなくてぶっかたことを通して、教えてあげられればいいですね。とにかく、まずは楽しんでほしい。パソコンに向かい合った後の受講者どうしのお茶タイムでは、いろいろな話で盛り上がりそうですよ。」と山之内さん。パソコンがこまは、ハードの調達や教育面で山之内さんをサポートしている。甲木野市から通う受講者は、一般の方向けの講座は、残念ながらついていきません。こまみたいに和気あいあいと学べるのがいいなと思います。しかも、わからない時はボランティアの方にすぐたずねることができるので、次のレベル、さらに次のレベルへとマイペースで学んでいけるのがいいですね。」と語る。

文字は障害の程度に合わせて拡大できる



【特集】情報の壁を、とっばらおう
もっと、多くの障害者の方が
手軽にIT機器を
～ボランティアや行政からのIT支援～

自宅を訪問し、
パソコンの初歩から
お教えします(パソコンがこま)

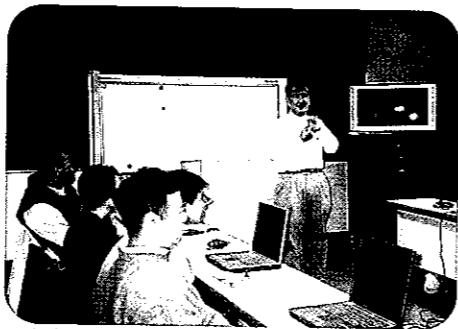
パソコンを使ってみたいけれど、独学でやるにはなかなか考えてしまつたが、講習を受けたけれど会場が近くになかったり、なかなか最初の二歩を踏み出せない…。そうした障害者の希望に応じ、出前方式で講習や操作の支援ボランティアを行っているのが「パソコンがこま」である。設立は平成十三年。

現在五十名近くのスタッフが登録されている。スタッフは年齢・性別・職業などさまざま。障害者から要請があった時に自宅へ伺いサポートする。スタッフの半数は鹿児島市以外の地区での支援を行うなど、その活動範囲は広い。障害者の身体的条件にも、視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由などいろいろあり、しかもキーボード上のローマ字が読みづらい方やキーをたたく力が弱い方など、それぞれ個人差がある。そうした個々の障害特性にあった



目の役割を果たすパソコンの東郷さん(右)。わからないところをすぐ教えてもらえる

学ぶ場を、そして
資金的な援助も



ハートピアがこまの視覚障害者のための講座

ハートピアがこまは、昨年視覚障害者のためのユニークなIT講座が開催された。それは、日本初といえる「視覚障害者のためのデジタルカメラ撮影会とデータ処理講座」。会場をのぞいてみると、参加者は全盲の方を含めて十数名。講師によるデジタルカメラによる撮影の方法、撮影した画像の印刷方法、パソコンに取り込んでメールとして送る方法等の講義があった。視覚障害者は撮影する対象を見ることができないのにもかかわらずどうやって撮影するのだろうか？すると、屋外へ出た受講生は思い通りにカメラを向け、視覚に障害のないいわゆる晴眼者にフラインダーの先にある風景やアングルを教えてもらい、気に入ったカットでシャッターを切っている。たとえ風景が見えなくても、写真を撮る楽しさを味わうことができるのが参加者の喜びである。さらに、自分で



楽しさがどんどん広がる。と丸田さん

手が不自由な方のサポートがむずかしかった「あるいは「筋ジンスの方で口にくわえての操作サポートが大変だった」といったレポートがあり、個別にサポートしていくスタッフの苦労が見えてくる。教えてもらう側の視点に立つと、納得のいくサポートを徹底する。そのため派遣スタッフと受講希望者とのミスマッチが起こらないようにもたえず気を配る。

パソコンがこまの代表新留哲郎さんは「まずは、人間としての信頼関係を築くこと。ボランティアだからということとでの手抜きは厳禁。そして、要請する方のパソコン利用目的に添って支援を行い、決して押し付けをしない。相手の疲労具合を確かめながら支援時間を調整するなど無理をさせない、自分も無理をしない。」とスタッフの心がけを語る。三歳の時から盲学校に通い、現在一児の母親である丸田和代さんは、子どもとメールのやりとりをしたいと、昨年六月からパソコンに向かう。彼女には週一回パソコンがこまの派遣スタッフがサポートしている。「やはり、パソコンが使えるようになるには、それなりにわからないところにもぶつかると、そういう時に気軽に教えてくれる方がそばにいてくれたら心強いですね。」と丸田さん。その「気軽」というのが、学ぶ側にとっても教える側にとってもキー

だれもがより簡単に、
役に立つ技術を提供
～情報機器および技術を開発する立場から～

聴覚障害者
などの配慮
がうれしい。

向けるには、着信を光や振動で知らせる電話やFAXが開発されている。また、肢体不自由者のキーボード入力を支援する機器として、光キーボードというものがある。これは、文字の配列はふつうのキーボードと同じだが、表面にキーの凹凸はなく、各キーの下に小さいセンサー(受光部)がついていてそこに赤いレーザー光線を当てると、ふつうのキーボードを押すのと同じ効果が得られるという仕組み。帽子のつば等にとりつけたレーザー光線発射機からキーボードに光をあてて入力していくというすぐれもの。



表が文字がわかりやすい、らくらくホン

点字マニュアルも付属

自宅を開放して、
だれでも自由に
パソコンを「アイキュービットの家」

ワード。楽しみながら学び、楽しみながら手を差し伸べること、IT機器はくつと暮らしの中に引き寄せられていくのがいい。

鹿児島市の繁華街の一角に自宅を開放した視覚障害者のためのパソコンの学びの場がある。アイキュービットの家。アイキュービットの家の意味合いをもたせて「アイキュービットの家」と名付けられている。運営するのは主婦の山之内トミエさん。彼女自身も網膜色素変性症の視覚障害を持つ。全盲の夫が宮崎鍼灸院の二階にはパソコンが四台ほど並んでいる。火曜日と金曜日には開放され、視覚障害者であればだれでも機器を自由に操作することができる。現在八名ほどが学んでおり、甲木野市や加治木町など鹿児島市以外からの方も多い。場所が繁華街とあって、家族といっしょに来て、本人が学んでいる間に家族は買物を楽しむという便利さも好評。



仲間がいるから楽しく学べる

コラム
COLUMN 2
バリアフリーなホームページって、どんなもの？

重要な情報源となりつつあるホームページ。多くのホームページは、障害を持っている人にとって使いにくい作りである。でも、ちょっとした工夫で、だれでも使えるホームページになる。文章や画像などの情報を音声読み上げソフトに対応させれば、視覚障害者も楽しめる。色の識別が困難な方に配慮して、グラフや地図などには色の組み合わせだけのデザインを避ける。音声動画に字幕やテキストによる解説を加えると、聴覚障害者にも楽しめる。

※みんなのウェブ(総務省) <http://www.jwas.gr.jp/>

ありば ヒューマンドキュメント

見えなくても
走るって楽しい!

みくも あけみ

[三雲 明美さん]



大会で獲得したメダル

鐘の音を目標に走り、 初出場ながら 大会新記録で優勝

鹿児島市の紫原に住む三雲明美さんは生まれた時から視覚に障害をもつ。年齢を重ねるにつれて障害の程度が進み、三十歳になってからは一人で歩くことができない程になった。学生時代に障害者陸上競技大会の六十メートル首競争に出場。この競技は、六十メートル先のゴールで鳴らされる鐘の音を目標に走る短距離競争である。初出場ながら九秒二の大会新記録で見事優勝。この

記録は現在でも破られていない。

当時の障害者陸上競技大会は、なるべく多くの人に出てもらうことを目的に、一度出場したら再び出ることはできなかった。その後出場資格が改正され、二度の出場も認められるようになった。三雲さんは十六年のブランクがあったものの再出場を決意。四年前のことである。しかし、練習中に砂場へ突っ込んでみたり、壁に激突しそうになったりして、次第に二人で走るのが怖くなった。自分といっしょに走ってくれる視覚に障害のない伴走者がいれば……。

最初はドキドキ 手さぐりのスタート

鹿児島大学理学部の学生で陸上部に所属していた平井達雄さん。宇宙に興味があった。その日、宇宙飛行士毛利衛さんの話を聞きたくて、鴨池運動公園で行っていた陸上のトレーニングを、いつもより早めに始めた。三〇メートルを三回走って休憩しながら、なにげなくバックストリート方向に目をやる。そこには、コースに張ってあるワイヤーを頼りに走っている三雲さんの姿があった。張ってあるワイヤーを見て、ああ、目が見えないんだなというのがすぐわかった。ちやうど近くを通りかかった時、三雲さんに声をかけてみた。話をするうちに、三雲さんが一月後の大会のために、伴走してくれる人をさがしていることがわかった。走るのが速くなりたい人がいる、走ることが好きな人がいる。よし手伝おう。「私が伴走者になりましょう」、平井さんのひとことで決まった。



「やわらかなものごしの平井さん」

互いの手首にかけて行う。お互いの走るスピードはもろろん、歩幅やリズムを合わせないと、なかなかうまくいかない。「大丈夫かな」というのが二人の正直な気持ちだった。「最初の一回の練習では違和感があり、ドキドキしながら走りました。」と三雲さん。平井さんにとっても伴走は初めての経験。すべてが手さぐりの状態だった。「今までは、常に自分が速く走ることが考えていないわけですからね」と平井さん。練習を重ねていくたびに、だんだん感じがつかめるようになり走りも安定してきた。

走ることが ますます楽しくなっ て

伴走の呼吸が合ってくる、よいよいタイムを縮めていく段階である。徐々に調子を上げ、二〇〇一年九月に出場したジャパンパラボリック二〇〇メートルでは三十三秒三三のタイムで優勝。そして、次の目標をフェスピックに置いた。フェスピックとは、正式名称を極東・南太平洋障害者スポーツ大会という国際大会である。出場するには、二〇〇メートルの場合三十三秒を切らなければならないという条件があった。ジャパンパラボリックの実績からいけば決して届かないタイムではない。順調に練習を重ねた。

たえず向上心を持ち続ける三雲さん



50センチの紐で手を結び



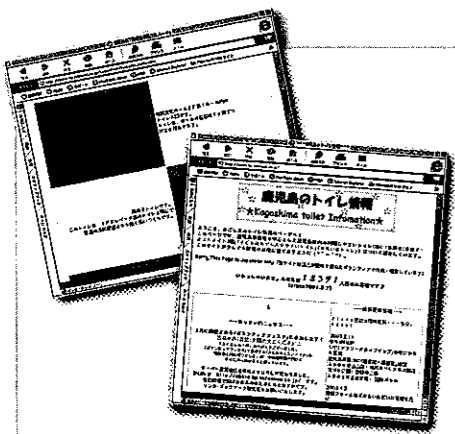
呼吸を合わせてスタートの練習



近くの公園でトレーニング

最初は、大丈夫かな？
でも、だんだん楽しくなり、
短距離の奥の深さも実感しました。

ところが、フェスピック最終選考会の二カ月前アクシデントが起きた。伴走者である平井さんが故障してしまったのだ。これからスピードアップをはかるという一番大切な時期である。三雲さんは知り合いに伴走をお願いしたり、一人でできるトレーニングを積むなどできる限りの努力を続けた。フェスピック最終選考会の五日前になって、平井さんはようやくクラウチングスタートができるまでに回復。そして不安いっはいで臨んだ最終選考会。タイムは三十三秒三三。フェスピック出場条件タイムに「シマシマ三秒三秒」届かなかったものの日本最高をマーク。十月末に韓国の釜山で行われるフェスピックへの出場権を得た。その後、フェスピックへの調整をかねて、三雲さんは県の身体障害者スポーツ大会にも出場した。ところが、今度は三雲さんが競技中に足首を捻挫してしまった。走りこみもままならない状況の中、フェスピックへ。結果は三十三秒二二。「不本意なというか、アクシデントがあったから仕方ないなということですかね。でも、走るのは楽しいし、ずっと続けたいですね。」と三雲さん。二カ月の春、大学院へ進む平井さんは「泣きごとを言わないのが、彼女のすばらしいところ。」と語る。冬の日の風下がり、三雲さんの自宅近くの公園。自分も走りたいという視覚障害者の女性も新たに加わり、三人は楽しげに練習に汗を流していた。



「おっかい」というハンドルネームでホームページを運営
 ●パソコン版 <http://okkie.hp.infoseek.co.jp/>
 ●I-mode版 <http://okkie711.cool.ne.jp/>
 ●J-SKY版 <http://okkie711.cool.ne.jp/>

実際に現場で調べた 確かなトイレ情報

「小さい子どもといっしょにトイレの中に入ることができなかった。でも、子どもから目を離せないで、仕方なくドアを開けたまま用を足しました」という主婦の投書が、沖園さんが街の中のトイレに興味をいだくきっかけだった。そして、五年ほど前に沖園さんは「鹿児島県のトイレ情報」というホームページを立ち上げた。「バリアフリーについても以前から関心がありましたが、トイレに関する情報であれば自分で収集できるので、インターネットで発信する価値はあると思いましたね。」と沖園さん。

●ありは通心

「鹿児島県のトイレ情報」を発信 沖園 真澄さん
 「鹿児島県のトイレ情報」がバリアフリーを知るきっかけになれば…



いろんな立場の人から見たトイレの評価を、と沖園さん



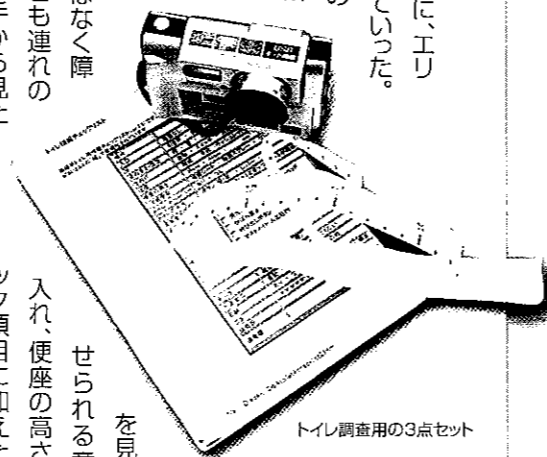
沖園さん自身三年前に関節リウマチを患い、全身に痛みが走って寝返りが打てない指も動かせないうような状態で、トイレもままならなかった。そうした経験やホームページ

三点セットを バッグにしのばせて

「三点セット」は、お店のイメージにも関わるし、掲載許可をいただくのがむずかしくたりする。

「三点セット」という車いす使用者の声にこたえて調査を開始。しかし、個人や民間会社の飲食施設のトイレ評価は、お店のイメージにも関わるし、掲載許可をいただくのがむずかしくたりする。

る情報を手はじめに、エリアを少しずつ広げていった。施設は公共施設のトイレ、公衆便所などで、場所・便座の型・手すりやトイレレットペーパーの有無・清潔度など、障害者、高齢者、子ども連れの人、主婦などの使い勝手から見た評価が掲載されている。始めた頃は、喫茶店・レストランなどの飲食施設のトイレ情報を盛り込んでいたが、「一番必要なのは飲食店のトイレ情報です」という車いす使用者の声にこたえて調査を開始。しかし、個人や民間会社の飲食施設のトイレ評価は、お店のイメージにも関わるし、掲載許可をいただくのがむずかしくたりする。



トイレ調査用の三点セット

を見た人から寄せられる意見を取り入れ、便座の高さなどもチェック項目に加えた。沖園さんはどこへ行くにも、デジタルカメラ、手づくりのメジャー、トイレ情報チェックシート、三点セットを、バッグの中に入れて持ち歩いている。トイレで写真を撮るパチパチ撮ったりしていると、利用者に変な目で見られることもある。

しかし、この鹿児島県のトイレ情報発信したおかげでいろいろな意見があり、情報を活用している人からも貴重な意見をいただいた。また、公共施設のトイレの問題に関して提言を求められることもある。人のやらないことをやるのが好きという沖園さんは、現在通信教育を受けながら、福祉に関連した職に就くという自分の夢の実現に向けてまっしぐらだ。

リレーエッセイ ハードルを越えて②

北迫 正治さん
 (日置郡伊集院町)

やれることは自分でやろう。 楽しく生きよう。

私は大学生の時にラグビー部に入っていて、長崎の大会でケガをしました。最初は長期入院程度だろうと思っていたのが、頸椎損傷で四肢が麻痺し、寝たきりの生活に。思い通りに動けない悔しさで自暴自棄になり、介護してくれる家族にあたりちらしたり、心がどんどんずさんでいきました。

これではいけない、なんとか人生をやり直したい。そんな思いで昭和61年に「太陽の里 療護園」オープンと同時に入所しました。ここで車いすに乘れるようになり、それまで天井が見えていなかった世界がまたくちがって見えただけです。車いすに乘れたのをきっかけに、よし、やれることはやろう、楽しく生きよう、と考えるようになってから、すべてが良い方向に回り始めました。



絵に添えられた言葉に心がなごむ

手紙などはすべて代筆してもらっていたのを、なんとか自分で書こうと筆をとりました。しかし、力が弱くてうまく書けません。短気を起こしやめようと思ったこともしばしば。先生の「上手に書こうとするんじゃなくて、わかればいいんだよ」そのひと言葉で楽になりました。そして、1~2年後、口に筆をくわえて絵も描けるようになり、水彩を始めたのです。

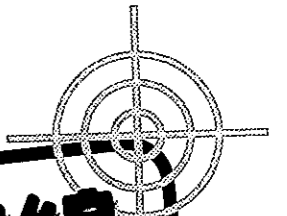
絵を誉められると嬉しくて、描くのがますます楽しくなり、先輩方が「花と詩と」というタイトルで出版してくれました。おかげさまでベストセラーになり、第2集、第3集と続編も出すことができました。その間、パソコンを覚えたり、講演を依頼されたり、すべてが「させていてくださる」「支えていてくださる」という気持ちで現在に至っています。



口にくわえて丹念に画いていく

●北迫 正治さん

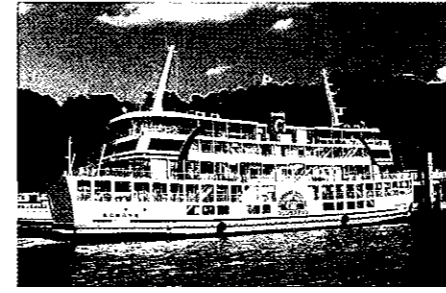
1948年、垂水市生まれ。
 大学時代、ラグビーの試合中に頸椎を傷め寝たきりの生活に。
 1986年、日置郡伊集院町にある身体障害者施設「太陽の里 療護園」へ入所。
 口に筆をくわえて絵を描き詩を添えた『花と詩と』1~3集を出版。
 個展を開いたり、講師として講演もこなす。
 2002年12月、県障害者週間における絵画展に出展。



KAGOSHIMA バリアフリー最前線 Barrier Free-Saizensen

鹿児島島のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアが取りはらわれています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

美しい船体、船内はやさしい設計に



もちろん通路の利用を配慮して段差はない。また、展望室へも車いすで行くことができ、つごんコーナーなどの売店のカウンターの高さも車いす利用者に合わせたものになっている。これまでフェリー

FILE No.1 やさしさあふれる仕様「プリンセスマリン」就航。

桜島フェリー

(桜島町船務課) ●099-293-2525

たっぶり確保された身障者用座席



「の階段といえは狭くて上り下りするの苦労していた。新船では階段幅を広くとって安全を最優先した設計になっている。みんなから愛されるフェリーになりますようにとの思いをこめて名付けられた「プリンセスマリン」、利用者を大切に

FILE No.2 民間施設では県内初。オストメイト対応トイレ

山形屋1号館7階

(鹿児島市金生町)

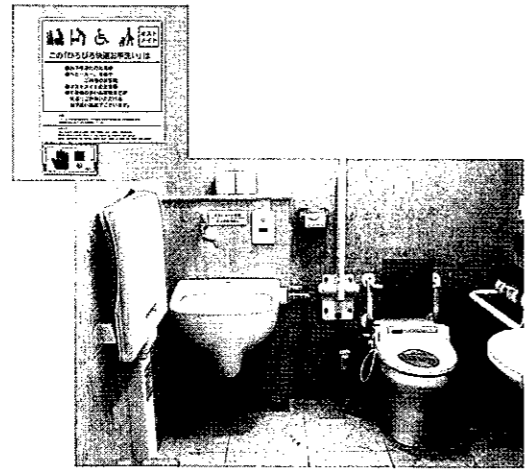
●病気などのため臓器に機能障害を負い腹部に人工的に排泄のための孔(フン管)でストーマを造設した人を「オストメイト」といい、県内には約二千人いると言われている。このストーマを持つと、便や尿が自分の意志とは関係なくでしてしまうため、排泄物を受ける処理袋(パウチ)を装着することになる。パウチがたまると汚物流しに排泄物を捨て、パウチをすすんだり、腹部の汚れを洗浄し

C O L U M N ①

働く喜びを通しての社会参加
「未来工芸社」(川辺郡知覧町)

働く意欲はあるが、障害をもっていることで、直ちに一般企業に就職できない人がいる。そうした人々を雇用し、社会的・経済的な自立を促す場が、昨年川辺郡知覧町に開設された知的障害者福祉工場「未来工芸社」である。障害を持った方の雇用を前提に、事業部門を独立採算制で運営している福祉工場内には、仏壇や行灯の加工、仏具やホワイトボードなどの木工品加工施設、それにバック詰め調味料の原料加工施設が整っている。作業指導員が常勤し、障害をもつ20代の社員を中心に就労を通して社会的な自立を目指している。●0993-83-3321 (未来工芸社)

衣服をかけるフックや移動式のいす、洗浄後にパウチや手をふくペーパータオルなどを完備した。このほか、手を触れると開閉する自動ドアや広いスペースなど、ベビーカーや車いす利用者も利用できる多目的トイレとなっている。●



大きくて使いやすいパウチ洗浄用の流し

●温泉王国、鹿児島。至る所にお湯が湧き、体や心をいやしてくれる。中でも霧島地区は温泉が多く、四季を通して県内外の客でにぎわっている。霧島神社から車で十分ほど走ると、公共の宿「霧島ハイツ」が見えてくる。眺望が良く、温泉も湧き、緑の中のリゾートといった趣である。

身体に障害を持った方や高齢者にも、もっとと気楽にハイツ



自動昇降機で大浴場に行ける

だれでものんびり温泉に浸かりながら絶景を堪能

FILE No.3 霧島ハイツ

を利用していただきたい。そんな思いから三年前の客室改装時にバリアフリーの客室を二部屋設けた。段差のない広めの部屋で、カーテンは電動式、照明はセンサーによって点灯する。トイレは洗浄機能付で利用者に好評である。館内に点字ブロックが張ってあるので、視覚に障害を持った方も利用しやすい。さらに、昨年四月の改装で、大浴場もバリアフリー仕様になった。大浴場へ続く階段に、リフトに乗るだけで昇降可能な自動昇降機が取り付けられているほか、浴場内の更衣室とカランの段差がない。だれでも安心してのんびり温泉が楽しめる。●

(霧島ハイツ) ●0995-57-1121



(霧島ハイツ) ●0995-57-1121

利用者の使い勝手を考えた都市型の宿泊施設。

FILE No.4 マリンパレスかごしま

(マリンパレスかごしま) ●099-253-8822

●昨年六月、鹿児島市与次郎ヶ浜にオープンした鹿児島県市町村職員共済組合の宿泊施設「マリンパレスかごしま」。県庁等に近く、眼前に桜島や錦江湾を望むことができ、ビジネスにも観光にももってこいのロケーション。バリアフリーの配慮も怠っていない。建物横の駐車場には身障者用が確保され、駐車場から玄関まで段差がなく車いすで入ることができ、エレベーターも車いすで楽に乗り降りできる大きさで、安全のために手すりをつけてある。また、車いすがバックしやすいように鏡張りになっている。館内に二つあるバリアフリーの客室は、広く明るく動きやすい。洗面台の下に空きスペースを設けて、車いすのまま利用できるようにするなど細かいところ



駐車場から玄関まで段差なしで

ろへの気配りもよい。二階と三階に多目的利用のトイレがあり、ベビーカーも完備している。さらに、結婚式等を行う大ホールは床面がフラットなので、だれでも安心して移動することができる。障害者や高齢者をはじめいろいろな利用者の使い勝手に応えた都市型の宿泊施設である。●

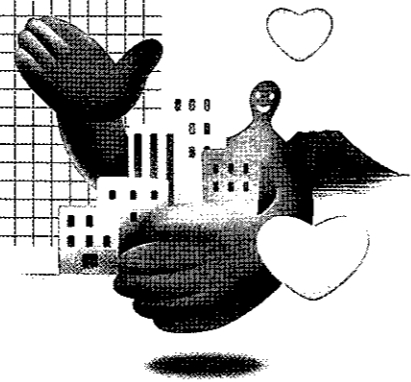
C O L U M N ②

だれもが気軽に海に親しんでもらうために。
障害者のためのヨット体験会

より多くの人々が海に親しんでいただくための場を提供できればと、大分市に事務局をもつヨットエイド九州は、昨年夏「九州一周バリアフリークルーズ」の一貫として、障害者用ヨットの体験会を錦江湾で開催。障害をもつ前は漁船に乗っていたという指宿郡山川町在住の脊髄損傷の男性が参加。実際に操船を体験し2時間ほどのクルージングを楽しんだ。航海の後には国産初の障害者用ヨット「有明」についての講演やロープワーク講習会なども開かれた。●097-540-6800 (ヨットエイド九州)



鹿児島県からの お知らせ



ハートビル法が改正されました

高齢者、身体障害者などの方々が円滑に利用できるバリアフリーの建築物の建築をすすめるための法律である、「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（通称「ハートビル法」）」が改正（※）されました。（※公布日：平成14年7月12日 施行日：平成15年4月1日）

ハートビル法 改正のポイント①

整備の対象となる 建築物の種類が広がりました

以前から整備の対象となっていた、店舗、病院、劇場、集会場、ホテルなどに加え、学校、事務所、共同住宅、老人ホーム、工場などが対象となりました。

ハートビル法 改正のポイント②

一定規模以上の建築物に 基準適合が義務づけられました

病院、劇場、集会場、展示場、老人ホーム等の建物で、2,000㎡以上のものを新築したり、増改築したりする場合、バリアフリー化が義務づけられました。

ハートビル法 改正概要

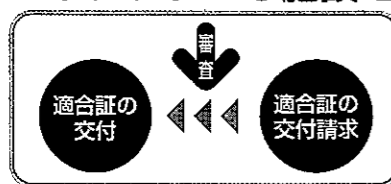
1. 特定建築物及び特別特定建築物
多数の者が利用する建築物である特定建築物は、学校、事務所、共同住宅、老人ホーム等とし、これらのうち不特定多数の者が利用し、又は主として高齢者、身体障害者等が利用する特定建築物で、高齢者、身体障害者等が円滑に利用できるようにすることが特に必要なものである特別特定建築物は、病院、劇場、集会場、展示場、老人ホーム等とする。
2. 特定施設
利用円滑化基準等の対象となる特定施設は、廊下等、階段、傾斜路、昇降機、便所、敷地内の通路、駐車場等とする。
3. 基準適合義務の対象となる特別特定建築物の規模
利用円滑化基準への適合義務の対象となるのは、特別特定建築物に係る床面積2,000㎡以上の建築物とする。
4. 利用円滑化基準
高齢者、身体障害者等が円滑に利用できるようにするために必要な特定施設の構造及び配置に関する基準を定める。
5. 認定建築物の容積率の特例
認定建築物の床面積の算定における不算入部分は、認定建築物の延べ面積の10分の1を限度として国土交通大臣が定める。

ハートビル法や、県福祉のまちづくり条例の推進によって、バリアフリーに配慮した建築物が増えてきていますが、そのストックは必ずしも十分でないのが現状です。今後も、改正されたハートビル法や県福祉のまちづくり条例にもとづき、県内のバリアフリー建築物の建築をより一層促進することとしています。

●改正ハートビル法に関する問い合わせ先…県土木部建築課 計画指導係 099-286-2111 内線 3711



バリアフリーな施設をアピール【福祉のまちづくり条例適合証】



適合証の交付が受けられます。

公共的施設を所有し、または管理する人は、その公共的施設が整備基準に適合しているときには、適合証の交付を請求することができます。

建物の正面玄関などに掲示し、バリアフリーな施設であることをアピールしましょう。

●問い合わせ先：県障害福祉課 099-286-2111 (内線2743)

ありは掲示板②

疑似体験で実感!

～交通バリアフリー教室開催～



高齢者の身になってステップを下る

公共交通機関を利用する障害者や高齢者へのサポートを疑似体験を通して学ぶ「交通バリアフリー教室」が、かこしまが一月二十六日西鹿児島駅構内で開催されました。教室には、公募で選ばれた九歳から七十五歳までの約六十人が参加。三つの班にわかれて「車いす利用者」「視覚障害者」「高齢者」を交互に体験しました。参加者は合計八キロの重りや白内障患者の視野状況を体験できるゴーグルをつけて電車の乗り降りをしたり、目隠しとなるアイマスクをつけて杖をつきながら階段を昇り降りするなど、



ちょっとした段差も車いすではむずかしい

普段は何気なく利用している施設での疑似体験を通して、障害者や高齢者に対するサポートの重要性を学びました。平成十二年に交通バリアフリー法が施行され、ノンステップバスの導入やホームへのエレベーター設置などハード面のバリアフリー化は徐々に進んできていますが、障害者や高齢者にさりげなく手を差し伸べることができる心のバリアフリーも大切です。

「阪神淡路大震災から学んだ」バリアフリーからユニバーサルデザインへ

～平成14年度福祉のまちづくり講演会開催～



心のバリアフリーやハード面のバリアフリーをテーマにした福祉のまちづくり講演会が、平成十四年十月、県内の地域女性団体リーダーの方々約一、〇〇〇名の参加のもと、鹿児島県市民文化ホールで開催されました。この講演会は、県民の福祉のまちづくりに関する意識の高揚を図るため鹿児島県が平成十三年度から開催しているものです。

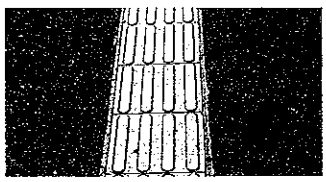
今年の講師は俳優の堀内正美さん。堀内さんは、阪神淡路大震災後、市民ボランティアネットワーク「がんばろう!神戸」を結成。「避難所支援」「仮設住宅自治体づくり」「被災された方がたの仕事づくり」「仮設から復興住宅への市民と行政による引越プロジェクト」などを展開しています。「阪神淡路大震災から学んだ」バリアフリーからユニバーサルデザインへをテーマにした今回の講演会。堀内さんのユニークな活動内容とユーモアあふれるお話に会場は盛り上がりしました。



ユーモアを交えてわかりやすく話す堀内さん

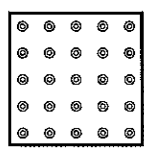
???
 バリアフリー
 Q&A

Q1 点字のブロックの多くはなぜ黄色なの？

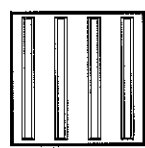


A 視覚に障害を持っている方もさまざま。中でも弱視の方は周辺路面との色の違いを頼りに歩行します。そのため、点字ブロックは輝度比や明度差が確保できる色であることが必要なのです。

Q2 点字のブロックの違いがわかりますか？

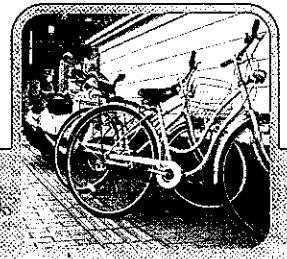


点状ブロック



線状ブロック

A 点状のブロックは段差の存在などの警告や注意喚起を行うためのもので、線状のブロックは移動する方向を示すもので、それぞれ機能がわかれています。



視覚に障害を持った人にとって大切な点字のブロックです。点字のブロックの上に自転車や看板を置いたり駐車することのないよう、皆さまのご理解とご協力をお願いします。



あっぱ

VOL.5 平成15年3月発行

「バリア」の逆は「ありば」。

バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、

「ありば」というタイトルにしました。

みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。

人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介します広報誌、

それが「ありば」です。

【感想をお寄せください】

鹿児島県保健福祉部障害福祉課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

TEL.099-286-2111 (内線2743) FAX.099-286-5558

[E-mail] shougai@pref.kagoshima.lg.jp

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へご連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。